

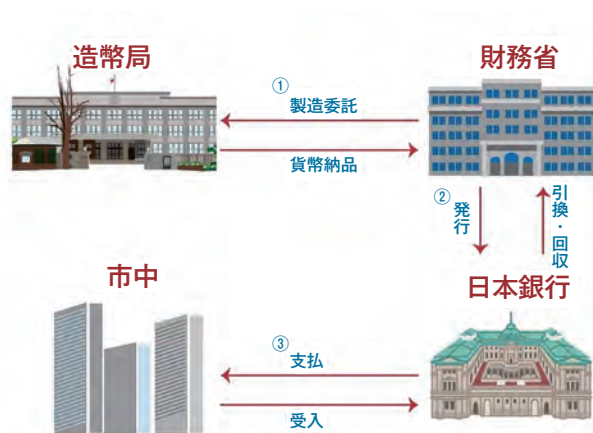
貨幣の製造

時代は変わっても、
貨幣づくりに対する姿勢は
変わりません

造幣局では、1円貨から500円貨までの6種類の
通常貨幣を製造しています。

貨幣は、材料を溶解し、圧延・圧穿・圧縁・圧印・
検査工程を経て製造されます。当局では純正画一
で偽造されない貨幣の安定供給のため、製造技術
や偽造防止技術の向上に努めています。

貨幣の製造～流通の仕組み



年度毎の貨幣の製造枚数が財務省において決定され、
造幣局は財務省から製造委託を受け、締結した契約に
基づき貨幣を製造します。

造幣局で製造された貨幣は全て財務省を通じて日本
銀行へ納められますが、この「政府から日本銀行への
貨幣の交付」をもって、貨幣は「発行」されたことにな
ります。

発行された貨幣は、日本銀行から一般の市中金融機
関へ渡り、市中金融機関から皆様のお手元に渡ること
となります。

通常貨幣の製造工程

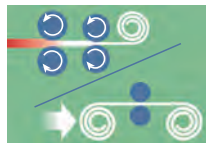


溶解工程

1. 溶解



2. 圧延



3. 圧穿



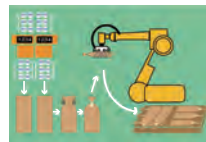
4. 圧縁



5. 圧印・検査



6. 計数・袋詰め



圧印・検査工程

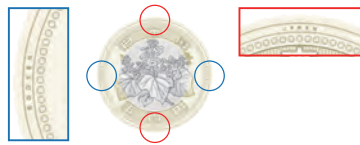


貨幣の偽造防止と安定供給

2021年11月から発行を開始した新しい500円貨幣には、最新の偽造防止技術が採用されています。

偽造防止技術①(微細文字)

切削加工、微細加工の限界に挑んだ技術です。



貨幣の縁の内側にミクロの精密加工で文字が彫られています。
左右「500YEN」 上下「JAPAN」

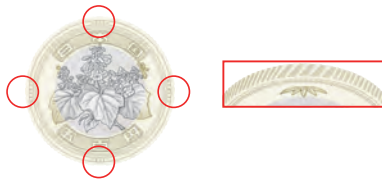
偽造防止技術②(潜像)

貨幣を見る角度の違いによって文字等が見え隠れする技術です。



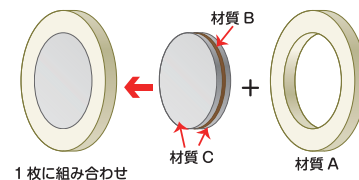
偽造防止技術③(異形斜めギザ)

大量生産型貨幣では世界で初めて導入された技術です。斜めギザの一部に形の違うギザを入れることによって、視認性を向上させると同時に、偽造抵抗力を大きく高めます。



偽造防止技術④(バイカラー・クラッド)

「バイカラー」技術は、リング状の金属の内側に、材質の異なる金属をコアとしてはめ合わせる技術です。「クラッド」技術は、異なる種類の金属板をサンドイッチ状に挟み込む技術です。この2つの技術を組み合わせて、1枚の貨幣を製造しています。



記念貨幣の製造

造幣局では、国家的な事業を記念して発行される記念貨幣を製造しています。



左から

- 東京2020オリンピック競技大会記念 一万円金貨幣
- 2025年日本国際博覧会記念 千円銀貨幣
- ラグビーワールドカップ2019™ 日本大会記念 千円銀貨幣
- 天皇陛下御即位記念 五百円バイカラー・クラッド貨幣

高度な偽造防止技術の導入

記念貨幣には、現行の通常貨幣で使用している偽造防止技術に加え、さらに高度化された種々の偽造防止技術を導入しています。

虹色発色技術

近年製造している記念貨幣等には、虹色発色技術が採用されているものがあります。虹色発色技術とは、貨幣表面に非常に微細な溝を作ることによって、光の回折・干渉を起こし、虹色に輝いて見えるようにする加工技術です。貨幣を見る角度が変わると、加工部が7色にキラキラと輝きながら変化するため、通常の着色などでは表現できない視覚効果を可能としています。虹色発色技術は見た目では判別しやすい偽造防止技術です。

虹色発色のイメージ



新幹線鉄道開業50周年記念
千円銀貨幣

勲章・褒章の製造

匠のこだわりが生み出す勲章 — それは世界に誇れる芸術です

造幣局は、内閣府賞勲局からの発注を受けて、勲章・褒章を製造しています。

勲章・褒章は国家または公共に対し功労のある方や、各分野において優れた行いのある方に授与されるものであり、美麗・尊厳・品格を兼ね備えていることが要求されます。このため、熟練した職員が細心の注意を払って製造しています。



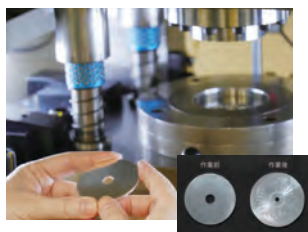
(A) 桐花大綬章(正章)

(B) 大勲位菊花大綬章(正章)

(C) 旭日大綬章(正章) (D) 宝冠大綬章(正章)

(E) 文化勲章 (F) 瑞宝大綬章(正章) (G) 褒章

勲章の製造工程



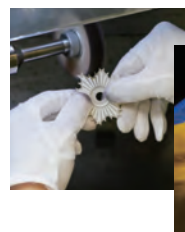
1 勲章の大きさに打ち抜いた材料板に模様をプレスし、輪郭にそって打ち抜き、切り抜きを行います。



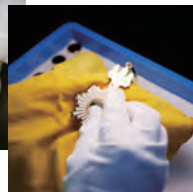
2 ヤスリで形を整えます。



3 七宝が入る部分に「ゆう葉」を盛り付けます。その後、電気炉に入れて「ゆう葉」を焼き付けます。



4 羽布で研磨して光沢を出し、必要な部分には金メッキをします。部品を組み立てて完成です。



Point

《機械の導入による効率化》

■ 機械の導入例

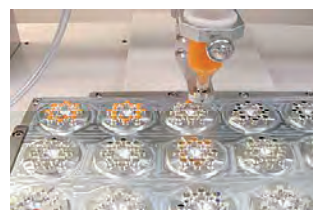
七宝自動盛り付け機による盛り付け作業

一部の勲章については、七宝ゆう葉の盛り付けに自動盛り付け機を導入し、効率的に作業を行っています。

自動研磨機による研磨作業

ゆう葉を焼き付けた後、表面を滑らかにするために作業者が砥石で研磨をしていますが、一部の勲章については自動研磨機を導入し、効率的に作業を行っています。

勲章の製造については、培われてきた伝統技術の確実な維持・継承に取り組むとともに、機械の導入などによる一層の効率化を図っています。



金属工芸品の製造

金属工芸品製造に用いる高度な技術は、
貨幣製造技術の維持・向上に寄与します

〔虹色発色技術の場合〕



皆様のニーズに — 伝統の技が応えます

造幣局では、公共性の高い金属工芸品を受注製造するほか、偽造防止技術をはじめとする貨幣製造技術の維持・向上のため、金属工芸品の製造を行っています。

■ 金属工芸品の数々



国民栄誉賞



東京オリンピック入賞メダル(金)



札幌冬季オリンピック入賞メダル(金)



長野冬季オリンピック入賞メダル(金)



七宝章牌「那智の扇祭り」



純金千支十二稜メダル(辰)



国宝章牌「東大寺」(銀)



令和5年桜の通り抜け記念メダル(銅)

貨幣セット等販売

あの日、あの時の『感動』をカタチに
— 永遠に刻む力があります

造幣局では貴金属を用いた金貨幣や銀貨幣を製造しており、これらの貨幣は、製造に要する費用が額面を超えるプレミアム貨幣として販売しています。このほか、未使用の500円から1円までの通常貨幣と年銘板（製造年を示すメダル）をケースに収めた多種類の貨幣セットを販売しています。



令和6年銘記念日貨幣セット



桜の通り抜け2023プルーフ貨幣セット

Point 魅力的な製品開発を目指して

「ONE PIECE（ワンピース）」は、シリーズ開始から瞬く間に人気を博し、世界中で愛され続けている作品で、造幣局ではこれを題材とした「ワンピース2022貨幣セット」及び「ワンピース2022プルーフ貨幣セット」を販売し、多くのお客様からご好評をいただきました。

造幣局では、キャラクター以外にも記念行事や世界遺産等様々なテーマを用いた、魅力的な製品開発に力を入れています。



（表面）

プルーフ貨幣セットに
組み込んだメダルのデザイン



（裏面）

©尾田栄一郎/集英社・フジテレビ・東映アニメーション



Fineness Certification of Precious Metal Wares, etc.

貴金属製品の品位証明等

公平・中立な化学の眼 — それが安心を提供します

貴金属製品の品位証明業務は、製造・販売を行っている業者からの依頼に応じて品位試験を行い、この試験に合格したものには、証明記号（マーク）を打刻してその品位を証明しています。

この品位証明記号を通称「ホールマーク」といい、国民の皆様からの信頼も厚く貴金属製品の取引の安定と消費者保護に貢献しています。

また、貨幣材料の分析及び試験で培ってきた技術を応用した各種分析及び試験を行っています。



海外業務

世界に学び学ばれ、
海外に広めたい技術と熱意があります

世界造幣局長会議をはじめとした国際会議に積極的に参加し、最新の貨幣製造・偽造防止技術等について、各国の造幣局や通貨当局等との情報交換を行っています。

世界の造幣技術の発展のために情報交換を行っています

■ 世界造幣局長会議

(MDC : Mint Directors Conference)

各国の造幣局長が出席する国際会議で、貨幣に関連する諸問題や共同解決等に関する情報交換の場となっています。具体的には、製品開発、工程改善、販売等における取り組み事例や貨幣を取り巻く各種状況等についてセッションが設けられ、各国の造幣局より取り組み成果や報告等が発表されます。



MDCオタワ2023

■ ワールド・マネーフェア（WMF）への参加

ワールド・マネーフェアは、毎年ドイツで開催される記念貨幣等についての世界最大規模のトレードショーで、造幣局も毎年参加してブースを出展するほか、さまざまな国の造幣局やメーカー、貨幣販売業者と意見交換を行っています。



貨幣販売業者との意見交換

■ 海外との情報交換

造幣局は、海外の造幣局や国立銀行等からの視察や研修を積極的に受け入れています。また、造幣局の職員が各国の造幣局を訪問して意見交換や技術交流を行い、諸外国の貨幣動向や技術について情報収集をしています。



海外での技術交流

外国貨幣の製造を通して、海外の友好国との関係を深めています

海外の友好国へ貨幣の受注活動を積極的に展開しています。

平成24年に戦後初めて一般流通貨幣であるバングラディシュ2タカ貨幣の製造を受注したほか、令和5年には日本とカンボジアの友好70周年を記念する銀貨幣を受注するなど、多くの国々の記念貨幣を製造しています。

海外から貨幣を受注し製造することは、その国との友好関係を深めることに大いに貢献するものであり、造幣局の存在意義は大変高まっています。

「日カンボジア友好70周年」記念カンボジア5,000リエル銀貨幣
カンボジア首相への贈呈（令和5年12月）



（写真提供 内閣広報室）